

PARNASSIUS

No. 41

目 次

私版 淡路の昆虫リスト	藤 富 正 昭	1
兵庫県のコガネムシに就いて	高 橋 壽 郎	5
イシガケチョウについて	谷 川 大 海	13
コムラサキを採集	交 告 尚 史	14
昆虫類の早期発生について	堀 田 久	15

淡 路 昆 虫 研 究 会

ENTOMOLOGICAL ASSOCIATION OF AWAJI

HYOGO JAPAN

October 1994

21122A

1944

私版 淡路の昆虫リスト

藤 富 正 昭¹

(忘備録)

小生は、1973年4月に、当時の兵庫県立農業試験場淡路分場に赴任し、94年3月現在、兵庫県農業技術センター農業部に籍を置いている。

通称「富さん」と呼ばれている風来坊である。

昆虫担当研究員として農業現場における「害虫防除研究」が、主たる任務であるが、年中夜間ほ場に白熱灯を点灯し、集まる害虫の密度調査を行って来た。いわゆる「誘蛾灯」調査も担当している。

時には、業務で島内を巡回し、その時々昆虫採集もして来た。

昆虫同好会の竹田氏、登日氏、堀田氏には、いつも世話になっている。

もう1年くらい前だったと思うが、登日さんが、コンピューターに入れる淡路の昆虫のデータベースを作るからまとめてほしいといわれた。

害虫分類は、少しは勉強したが、もともと分類は素人であり、自信がまったくない。

しかしながら淡路在住20年間に、たくさんの虫とつきあい、その名前を知ろうと努力したことは事実である。

ここに、誘蛾灯(発生予察灯)調査台帳に記録した虫の名前とほんの少しだが、淡路で採集し標本にした虫の中から、ほぼこの虫に間違いのないのではないかと思える虫だけを拾い集め、アイウエオ順に一覧にした。科毎に記載する方がよかったかもしれないが、今後の課題としたい。

さて、私の持っている昆虫図鑑は、北隆館の「原色昆虫図鑑I・II・III巻」昭和44年11月発行の四版である。

和名や学名が変わっているかもしれないが、この図鑑に記載されている名称を原則として使用した。

図鑑に出ていないものは、私が集めた文献によった。

なお一覧表中の表示は下記のとおりである。

◇昆虫名(和名)・採集場所・採集年月日

例1) イボタガ 厚浜 750329

洲本市中川原町厚浜(農試淡路分場内)1975年3月29日採集

例2) イネヨトウ 八木 840523

三原郡三原町八木養宜中(淡路農技センター内)1984年5月23日採集

◆採集場所の略称は下記のとおりである。

淡路町 : 岩屋, 田之代

東浦町 : 釜口, 仮屋, 入留麻, 楠本

北淡町 : 育波, 常隆寺

一宮町 : 尾崎, 萩

五色町 : 都志角川, 鮎原, 三野畑

津名町 : 志筑, 中田, 大町, 佐野, 摩耶, 東山寺

三原町 : 八木養宜, 市, 論鶴羽

緑町 : 広田, 倭文

1: 〒675 兵庫県加古川市神野町西条 985

南淡町:灘, 仁頃, 吹上, 阿万, 刈藻
洲本市:中川原町厚浜, 由良, 下加茂, 塩屋, 上内膳

☆ こんな虫が淡路にいるはずがない。同定ミスではないか。ワープロに打ち込むときに間違っただのではないかなど、様々な疑問があると思います。どしどしご意見をいただきたく存じます。淡路の昆虫学の一助になれば幸いです。

淡路の昆虫1 (鱗翅目-蛾類)

ア

アオイラガ
志筑 760711, 八木 850717, 880701
アオバセダカヨトウ
八木 891019
アオバハガタヨトウ
厚浜 761121, 781118
アカエグリバ
厚浜 780822, 八木 900913
アカキリバ
厚浜 791018
アカクチバ
八木 930701
アカスジシロコケガ
厚浜 790831, 八木 890628
アカバキリガ
厚浜 780406, 790326
アカハラゴマダラヒトリ
八木 920425
アカマダラメイガ
厚浜 760601
アケビコノハ
厚浜 730606, 八木 841105
アトモンヒロズコガ
八木 870518
アヤナミノメイガ
八木 830825
アヤクチバ
八木 930701
アワヨトウ
八木 820924, 850712, 900607, 900711
イッテンオオメイガ
田之代 7310— (幼)
イネキンウワバ
厚浜 780820, 八木 850813, 900804
イネヨトウ
八木 840523, 900503
イボタガ
厚浜 740403, 八木 830402, 840416
ウスエグリバ
厚浜 810610
ウスキツバメエダシヤク
八木 830517, 880525, 911110
ウスタビガ
厚浜 761121, 八木 931110
ウンモンズズメ
厚浜 780512, 八木 900823, 910907
エグリツマエダシヤク
厚浜 750504, 八木 920423, 921018, 930502
エゾギクトリバ

厚浜 730922
エゾギクキンウワバ
八木 931207
エソズズメ
八木 920525
エビガラスズメ
厚浜 790927
オオエグリシャチホコ
厚浜 750513, 八木 860812, 920505, 920826
オオエグリバ
八木 920716
オオギンスジアカハマキ
厚浜 770511
オオシモフリスズメ
俊文 790410
オオシロモンノメイガ
八木 930831
オオノコメエダシヤク
厚浜 791026
オオトビモンシャチホコ
厚浜 721109, 八木 891120, 911110
オオハガタナミシヤク
厚浜 750410
オオマエキトビエダシヤク
厚浜 810414
オカモトトグエダシヤク
厚浜 800325, 810308
オビカレハ
八木 920529, 920614

カ

カキノマイコガ
厚浜 790616
カギモンキリガ
厚浜 780415, 八木 920406
カクモンヒトリ
八木 840904
カノコガ
八木 920829, 930916
カブラヤガ
厚浜 800303, 八木 920412
キアシドクガ
八木 840603, 厚浜 790601, 810603
キエダシヤク
厚浜 750610
キクキンウワバ
八木 860719, 9112—
キバラケンモン
厚浜 750513
キハラゴマダラヒトリ
厚浜 700522, 八木 840422, 0516, 0929

キベリネズミホソバ
八木 930512
ギンスジキンウワバ
厚浜 770411, 八木 830815
ギンモンシロウワバ
厚浜 780404
クスサン
厚浜 760923, 八木 921001, 930925
クヌギカレハ
厚浜 781101, 八木 911029, 921023
クロスジカギバ
八木 930513
クロフオオシロエダシヤク
諭鶴羽 850728
クワゴマダラヒトリ
八木 890905
クワノメイガ
厚浜 8009-
コナガ
八木 840401, 0410, 0424
ゴマダラキコケガ
八木 920621
コブノメイガ
八木 841003, 900713
ゴマフボクトウ
八木 840904, 890905, 900827
ゴマフリドクガ
八木 850528, 900527, 920731
コマルモンシロガ
厚浜 780908
コヨツメアオシヤク
厚浜 750504

サ

サザナミオビエダシヤク
厚浜 750529
サラサヒトリ
厚浜 790629, 800707
シロイチモジヨトウ
八木 900824
シロオビノメイガ
八木 840906, 900806
シロオビヒグナガ
厚浜 780416
シロシタホタルガ
八木 890706
シロシタヨトウ
厚浜 730601
シロスジアオヨトウ
八木 820524
シロスジカバマルハキバガ
八木 931009
シロスジツトガ
厚浜 750605
シロヒトリ
志筑 760824, 八木 840828, 900823
シロヘリキリガ
厚浜 810330, 八木 920401, 930403
シロモンノメイガ
厚浜 720920, 八木 920920
シロモンヒメハマキ
厚浜 810522, 八木 920512
シンジュサン
志筑 730830, 八木 920621

スカシエダシヤク
厚浜 750410, 780412
スカシカギバ
厚浜 810607
スジキリヨトウ
八木 900514
スジベニコケガ
八木 830509, 840523, 920510
スジモンヒトリ
厚浜 770423, 八木 820924, 900909
セスジスズメ
厚浜 770612, 780708, 800722
セスジナミシヤク
厚浜 750610, 八木 930414

タ

タケカレハ
八木 850513, 930514
タマナキンウワバ
厚浜 791106, 八木 880921
タマナヤガ
八木 910921
チズモンアオシヤク
厚浜 740426, 八木 930921
チャドクガ
八木 840911, 921007
ツゲノメイガ
志筑 770607, 厚浜 800619
ツトガ
厚浜 750612
ツマキシヤチホコ
厚浜 780809, 八木 920831
ツマキシロナミシヤク
八木 920603
ツマグロシロノメイガ
八木 880930
テングイラガ
八木 880701
ドクガ
厚浜 740625, 八木 920630
トビイロトラガ
志筑 760525, 八木 930531
トビモンオオエダシヤク
厚浜 780307, 800303, 810308
トビモントリバ
八木 830506

ナ

ナカグロツトガ
厚浜 750512, 八木 830422
ナミガタシロナミシヤク
厚浜 770528, 810602, 八木 910527, 920619
ニカメイガ
八木 840625
ニトベエダシヤク
厚浜 781122
ニワトコドクガ
八木 890525
ネギコガ
八木 920512
ノコメトガリキリガ
八木 9112-

ハ

ハスオビエダシヤク
厚浜 800325, 八木 890225

ハスモンヨトウ
 厚浜
 ハンノキリガ
 厚浜 771129
 ヒメツバメエダシヤク
 八木 930925
 ヒメヤママユ
 八木 911110, 931105
 ビロウドハマキ
 厚浜-07-ピワ
 ヒロオビヒメハマキ
 厚浜 760615
 ヒロヘリアオイラガ
 八木 900618, 900901
 フクラスズメ
 八木 900913
 フタオビコヤガ
 八木 910902, 900828
 フタツメヒメハマキ
 厚浜 760616
 フタナミトビヒメシヤク
 厚浜 750425
 ベニゴマダラヒトリ
 八木 910823
 ベニスジヒメシヤク
 厚浜 750425
 ベニスズメ
 八木 920520
 ベニモンアオリンガ
 八木 930423
 ヘリクロホソハマキモドキ
 厚浜 780416
 ホシオビコケガ
 厚浜 790516
 ホシホウシヤク
 八木 911004
 ホシヒメホウシヤク
 厚浜 791026
 ホソバシヤチホコ
 八木 920703
 ホタルガ
 八木 930626

マ

マイコトラガ
 厚浜 740319
 マイマイガ
 厚浜 770615, 770702 (乱舞)
 マエアカスカシノメイガ
 八木 880930, 910524, 1006
 マエモンホソハマキモドキ
 八木 850518
 マダラエグリバ
 厚浜 770511, 八木 930423
 マダラミスメイガ
 八木 840927, 900917, 911008
 マツカレハ
 八木 850527, 920531
 マツキリガ

厚浜 780404, 790401
 マツノメイガ
 八木 911005
 ミツモンキンウワバ
 厚浜 780929, 790917, 八木 911008
 ミドリケンモン
 厚浜 801109, 八木 911110
 ミノウスバ
 厚浜
 メンガタズズメ
 厚浜 800816
 モモイロツマキリコヤガ
 厚浜 780525
 モモスズメ
 厚浜 800724, 八木 870820, 900526, 900712
 モモノメイガ (モモノゴマダラノメイガ)
 厚浜 760618, 八木 850824, 870630
 モンキキナミシヤク
 八木 930416
 モンキシロノメイガ
 厚浜 750514, 八木 930510, 930615
 モンクロシヤチホコ
 八木 850819, 920825
 モンシロクルマコヤガ
 八木 930923
 モンシロムラサキクチバ
 厚浜 750415

ヤ

ヤマトカギバ
 厚浜 810604
 ヤママユ
 八木 841003, 920830
 ユウグモノメイガ
 八木 930427
 ユウマダラエダシヤク
 厚浜 780515, 八木 841003
 ヨツボシホソバ
 八木 910619
 ヨツモンマエジロアオシヤク
 八木 880525
 ヨトウガ
 八木 920421
 ヨモギトリバ
 厚浜 790407

ラ

リンゴドクガ
 八木 930427

ワ

ワタヘリクロノメイガ
 八木 910916, 900901
 ワタミマルハキバガ
 八木 920510
 ワモンキシタバ
 八木 920629
 ワモンノメイガ
 八木 840428, 0502

(ふじとみ まさあき)

兵庫県のコガネムシに就いて*

高橋 壽郎²

Notes on Lamellicornia-Fauna of Hyogo Prefecture

Toshio Takahashi

はじめに

ここに扱うコガネムシとはコガネムシ主科 (Superfamily Scarabaeoidea) に属するコガネムシである。

”日本産昆虫総目録” (1989) によると日本産は 6 科 15 亜科 100 属 515 種となる。石田正明・藤岡昌介による”日本産コガネムシ主科目録” (1988) によると 8 科, 17 亜科, 103 属, 410 種, 102 亜種となって, 科の別け方, 亜科の別け方等々が違っている (前者は亜種を種と数えている)。また両方とも Family Ceratocanthidae とそれに属する 2 種がふくまれていない。また前者には *Serrognathus damoiseau* (Maes, 1982) なるヒラタクワガタが入っている。現段階では日本産コガネムシ主科の分類は流動的である。再検討の必要も多くあると考えられる。したがって本報文で取りあげた分類は筆者が最良と考える方法によっていることをつけ加えておく。

以上の数字から本州に分布していると考えられるものを総目録から拾ってみると 4 科 14 亜科 74 属 245 種である。今回筆者が兵庫県産としてまとめたものは 5 科 17 亜科 65 属 176 種である。したがって本州産の 71 % 位を産することになるかと思われる。

そこでこれら兵庫県に分布していると考えられるコガネムシについての若干の問題点を検討して見ることにした。

兵庫・神戸を原産地とするコガネムシ

兵庫・神戸を原産地とするコガネムシはかつて筆者がまとめて発表したものがある (1987)。もともとこの中には日本に分布しているとは考えにくい種をふくんでいたりする。これ等の種についての解説は拙報を見て頂くとしてここでは省略させて頂く。これ等兵庫・神戸を原産地として記載されたものでその後現在迄記録の見られないものが 3 種ある。即ちアラメエンマコガネ *Onthophagus ocellatopunctatus* Waterhouse, 1875, ヤマトエンマコガネ *Onthophagus japonicus* Harold, 1875, クロツヤマグソコガネ *Aphodius (Acrossus) atratus* Waterhouse, 1875 の 3 種である。これ等は現在の兵庫県下には産しないのではないかと思われる。

新種記載ではなく Hiogo, Kobe 産が初めて日本から記録されたと考えられる種にオオクワガタ *Dorcus hopei* (Saunders, 1854) とヒラタクワガタ *Dorcus platymelus pilifer* (Snellen van Vollenhoven, 1862) (3♂, 2♀, Hiogo, Heyden, 1879) の 2 種がある。この 2 種は現在の兵庫県下で個体数は減少しつつあるようだがまだ産している。

*: 兵庫県甲虫相資料・292

2: 〒652 神戸市兵庫区氷室町 1 丁目 44

兵庫・神戸産として記録された疑問種

兵庫県から記録されたコガネムシの内次の4種はどうも兵庫県下には分布していない種と考えた方がよいのではないかと思われる。

- *Gymnopleurus (Paragymnopleurus) stipes japonicus* Balthasar, 1955
武庫川産標本によって新亜種として記載された。いわゆるタマオシコガネの1種であるがこの記載以外全く県下の記録はない。原名亜種は日本に分布していない。産地など信用性は薄く兵庫県産として認め難い。
- *Copris pecuarius* Lewis, 1884 ミヤマダイコクコガネ
朝来郡生野から 2exs. が記録されている(井上, 1972)。これ以外本種の県下の記録は無い。標本が見られないし、ダイコクコガネとの区別が必ずしも楽ではない。さらに最近のようにダイコクコガネそのものが県下では減少しつつある現状から県のファウナからはずしておいた方がよいのではと考えている。
- *Onthophagus (s. str.) trituber* Wiedeman, 1823 ミツコブエンマコガネ
東南アジアには広く分布している糞虫である。1991年揖保郡網干で採集され田中稔氏により記録の発表があった(田中, 1993)(内1♀♂田中氏の御好意で筆者の手許にも保管されている)。揖保川の河口に埋め立て工事があり台湾から土砂を輸入していたのでそれに混じって入って来たのではと思われる。わりと個体数多く採集されたようだがそこに定着するかどうか?今暫く状況を見なければと考えられる。
- *Melolontha satsumaensis* Nijima et Kinoshita, 1923 サツマコフキコガネ
故澤田玄正博士が神戸市原田におられた故 J. A. E. Lewis 氏を訪問、同氏の標本の中に神戸産の本種が2頭あることを記録された(1937)(同時に東京市中野区上高田産1頭もあることを記録しておられる)。その後兵庫県下での記録は勿論無い。故野村 鎮氏は”日本及びその近傍のコフキコガネについて”の研究論文を発表になられて(1952)サツマコフキコガネは九州だけに分布しているコフキコガネで澤田博士の神戸産にも言及コフキコガネ *Melolontha japonica* Burmeister, 1855 ではないかとされている。

兵庫県産稀少コガネムシ類

兵庫県産コガネムシの内県下の1ヶ所或は数ヶ所に産すると記録されているだけのものが多い。調査が充分おこなわれていない結果かと思うが次にそれらを簡単にながめて見たい。

- *Ceruchus lignarius monticola* Nakane, 1978 ミヤマツヤハダクワガタ
現在氷ノ山での産が知られているだけである。故大上宇一氏による揖保郡の記録があるが(1907)これは同定間違いではと考えている。
- *Aesalus asiaticus* Lewis, 1883 マダラクワガタ
氷ノ山と扇ノ山での記録が知られているだけである。但し扇ノ山での記録はわりとある。このあたりでは多いのかもしれない。
- *Figulus punctatus* Waterhouse, 1873 マメクワガタ
三原郡沼島と飾磨郡の家島からの記録があるだけである。それぞれの地に生息しているのではなく流木などと一緒に漂着したのではないかという見方がある。
- *Nicagus japonicus* Nagel, 1928 マグソクワガタ
生態がわかってやはり本種はクワガタムシ科に扱うべきであるとされている(田花雅一・奥田則雄, 1992)。奈良県とか京都府下にわりと産地が知られている。県

下では小代溪谷が知られているだけであるが但馬地域では恐らくもっと広くいるのではないかと考えられる(以上クワガタムシ科)。

- *Trox (Omorgus) obscurus* Waterhouse, 1875 オオコブスジコガネ
摩耶山麓での記録があるのみ(一中附近の昆虫, 1941)。
- *Trox (s. str.) mandli* Balthasar, 1936 ヘリトゲコブスジコガネ
城崎郡香住町山田溪谷での記録があるのみ(谷角, 1982), 共にコブスジコガネ科。この科のものは非常に採集が難しいグループでもっと集中して調査をしなくては良くわからない。特に山岳地帯などの調査が問題である。
- *Ochodaeus maculatus* Waterhouse, 1875 アカマダラセンチコガネ(アカマダラセンチコガネ科)
神崎郡笠形山, 多可郡三国岳の2ヶ所で採集され3頭が知られているだけでそれ以外の記録が全く見られない。採集者は猪股涼一博士と岡本 清氏である。これ等3頭の標本は御両人の御好意で検査させて頂き内笠形山産1♀標本は岡本 清氏の御好意で寄贈を受けた。恐らく調査したらまだ見ることは期待できる種だと思われる(県の三室山から鳥取県に向かって流れる加地川の西方吉川の流域に本種が多いという記録がある。恩藤・江原, 1974)

○ 次に記すマグソコガネ亜科のものはいずれも県下での記録地が1ヶ所とか数ヶ所のみのもので現在どのような状況になっているのかよくわからず再調査, 再検討の必要な種である(括弧内は県下の記録地)。

- *Aphodius (Acrossus) superatratus* Nomura et Nakane, 1952 ニセクロツヤマグソコガネ
(氷上郡柏原)
- *Aphodius (Agrilinus) pratensis* Nomura et Nakane, 1951 マキバマグソコガネ
(氷上郡田中)
- *Aphodius (Aphodillus) impunctatus* Waterhouse, 1875 ツヤマグソコガネ
故野村 鎮氏が分布地に兵庫を示されている(1938)が本種は九州に分布して本州にはいない種のようなのであるので県産からは省いた方がよいと考える。
- *Aphodius (Calamosternus) uniflagiatus* Waterhouse, 1875 オビマグソコガネ
(出石郡出石町松ヶ枝)
- *Aphodius (Diapterna) troutzkyi* Jacobson, 1897 マルツヤマグソコガネ
(出石郡出石町奥山茗荷谷)
- *Aphodius (Nipponoaphodius) gotoi* Nomura et Nakane, 1951 ツヤケシマグソコガネ
(神崎郡大山村, 朝来郡生野)
- *Aphodius (Paremadus) mizo* Nakane, 1967 ミゾムネマグソコガネ
(多紀郡篠山町小金岳)
- *Aphodius (Trichaphodius) comatus* Ad. Schmidt, 1920 ヒメケブカマグソコガネ
(伊丹市園田, 養父郡氷ノ山)
- *Saprosites japonicus* Waterhouse, 1875 クロツツマグソコガネ
(川西市坂本町)
- *Psammodius (Leiopsammodius) japonicus* (Harold, 1878) ヤマトケシマグソコガネ

(神戸市住吉川々畔)

- *Trichiorhyssenus asperulus* (Waterhouse, 1875) ホソケシマグソコガネ
(神戸)
- *Rhyparus peninsularis* Arrow, 1905 セスジカクマグソコガネ
(川西市大和)
- *Caelius denticollis* Lewis, 1885 トゲニセマグソコガネ
(神戸市, 多紀郡篠山町小金岳)

○ *Anthypna pectinata* Lewis, 1895 ヒゲフトハナムグリ (ヒゲフトハナムグリ亜科)
古く Hyogo[Yawata,1942] の記録はあるがその後仲田元亮氏は川西市笹部で採集された
として記録しておられる (大和団地のすぐ下の栗林の下草を飛んでいるのを採集)。近くで
は箕面の記録もある。関東地方では平野部に春早く多くいるようだ。近畿地方での産はあ
まりわからないコガネムシである。出現期の問題もあり意外と産地があるかもしれない。

○ 次のコフキコガネ亜科のピロウドコガネ族に含まれる各種ピロウドコガネ類も産地が
1ヶ所とか数ヶ所位しか知られていなく再調査をしなくてはいけないグループであるが何
分にも個体数を得る機会が少ないので余程綿密な調査をやらなくてはいけないと考えてい
る (分類学的にも再検討の必要なグループである)。

- *Gastroserica brevicornis* (Lewis 1895) コヒゲシマピロウドコガネ
遊磨正秀博士が養父郡田湊山で夜間採集で得られた 2♀が知られているだけであ
る。全国的に見てもあまり記録の見られないピロウドコガネである。
- *Serica karafutoensis honshuensis* Nomura, 1972 ホンシュウピロウドコガネ
(扇ノ山)
- *Serica nitididorsis opacidorsis* Nomura, 1972 ホソヒゲナガピロウドコガネ
(氷ノ山)
- *Serica ovata* (Nomura, 1971) マルヒゲナガピロウドコガネ
(氷ノ山)
- *Serica takagii* Sawada, 1959 ハラグロピロウドコガネ
(養父郡妙見山)
- *Nipponoserica peregrina* (Chapin, 1938) ワタリピロウドコガネ
(氷上郡神楽村)
- *Nipponoserica similis* (Lewis, 1895) カバイロピロウドコガネ
筆者がのべた如く (1994) 淡路島 (洲本市, 津名町大町), 家島にいるのは本種と
扱うべきかと考える。
- *Sericania alternata* Sawada, 1938 ヒラタチャイロコガネ
(宍粟郡音水)
- *Sericania fuscolineata nipponensis* Nomura, 1976 ヤマトチャイロコガネ
(氷ノ山)
- *Sericania imadatei* Sawada, 1955 イマダテチャイロコガネ
(氷ノ山)
- *Sericania kamiya* Sawada, 1938 カミヤチャイロコガネ

(扇ノ山)

- *Sericania kobayashi* Nomura, 1976 コバヤシチャイロコガネ
(三濃山)
- *Sericania suchalinensis* (Matsumura, 1911) カラフトチャイロコガネ
(氷ノ山)
- *Sericania yamauchu* Sawada, 1938 ヤマウチチャイロコガネ
(音水)

上記の内最後の2種は各1♀ずつの標本しかないので同定が不安である。もっと材料が集まるまで保留にしておいた方がよいと考える。

○ *Anomala osakana* Sawada, 1942 オオサカスジコガネ (スジコガネ亜科)

川西市妙見口駅と同じく川西市の猪名川と武庫川のほぼ中間に位置する台地の上の住宅地の外燈と門燈に飛来するという記録が知られているだけである。同じ族のチビサクラコガネ *Anomala schoenfeldti* Ohaus, 1915 が西宮市の枝川町の外燈とか東鳴尾駅、武庫川駅、甲子園駅の電燈に飛来することが知られているのと同じように発生地がその付近の芝草地ではないかと考えられる。同じように同じ属のヒラタアオコガネ *Anomala octiescostata* (Burmeister, 1844) が県下のゴルフ場に行けばまづ得られるのではないかと(ゴルフ場の芝地に発生するようである)といった事実と傾向的に似た現象を呈している。

○ ハナムグリ亜科, トラハナムグリ亜科に属するもの。

- *Glycyphana tonkinensis viridis* Sawada, 1942 ホソコハナムグリ
田中正浩氏が神戸市内の太山寺のシイの樹より割って出された1♂が知られているだけである(この標本は田中氏の御好意で検させて頂いた)。
- *Gametis forticula* (Janson, 1881) アオヒメハナムグリ
(三原郡福原)
上記一例の記録があるのみである。淡路島にいても不思議ではない。県の瀬戸内海に面した地域での産も期待できるのではと思っている。
- *Gnorimus subopacus viridiopacus* (Lewis, 1887) アオアシナガハナムグリ
氷上郡神楽村の記録があるのみでその他の地域では全く知られていない。鳥取県の八頭郡智頭町の八河谷～綾木谷川流域, 八河谷, 芦津～北股川流域にはアオアシナガハナムグリが普通に生息しているという記録がある(恩藤, 江原, 1974) 丁度氷ノ山, 三室山の西側にあたる。したがって氷ノ山, 扇ノ山, 音水, 赤西あたりにいる可能性は充分ある。
- *Paratrichius septemdecimguttatus* (Snellen van Vollenhoven, 1864) シュウシチホシハナムグリ
穴栗郡坂の谷と美方郡扇ノ山の記録があるだけである。恐らく中間帯の氷ノ山をふくんで但馬地方には分布していると考えられる。坂の谷では一度に4♂, 2♀が採集されているので個体数も多いのではと考えたりする。

以上産地の記録の少ない種を説明したがさらに兵庫県産コガネムシ主科として忘れられない種若干を次にのべて見る。

- *Dorcus montivagus* (Lewis, 1883) ヒメオオクワガタ

この種が美方郡扇ノ山に多産していることがわかったのは1970年代のことであった。兵庫県下の他の地域でほとんど産地の記録が無いだけに貴重な存在だと考えられていたがこの地も開発がおこなわれ最近では採集個体数が減少しているようで淋しい。同じ属のオオクワガタにしてもかつては川西市笹部とか能勢地方にはかなり多く産したものであるがこちらも開発と乱獲で次第に減少しつつあるようでこの種も他に県下の産がほとんどなくなっているだけに淋しい状況である。

- *Protaetia lenzi* (Harold, 1876) レンツアオハナムグリ

かつての産地であった川西市の笹部とか能勢地方の開発でその姿を減少しつつある。またあれ程いた明石城内も公園整備がおこなわれてから減少の一途をたどっている。現在県下で本種を間違いなく見られるといった場所が無くなりつつあるようだ。

- *Osmoderma opicum* Lewis, 1987 オオチャイロハナムグリ

戦前は神戸市内での産がとりあげられただけであったが宍粟郡の坂の谷とか養父郡の氷ノ山、美方郡の扇ノ山あたりに見ることが出来る種である。それ程個体数は多くないが中国山脈の東端部としての地域はまだ分布しているようである。

- *Paratrichiulus itoi* Tagawa, 1931 キイオオトラフコガネ

従来オオトラフコガネと考えられていたものの中に♂交尾器の形状の違いからキイオオトラフコガネと別けて名前を与えられた種である。兵庫県産のものが全部このキイオオトラフコガネに該当することを筆者は報告した(1990)。県下の宍粟郡音水、養父郡氷ノ山、美方郡扇ノ山には分布しており個体数もそれ程少なくはないように思う。ただし真のオオトラフコガネが県下にいないものかももう少し調べてははいけないと考える。

自然状態の変化とコガネムシ相の変化

日本の昆虫学の発展は江戸末期に洋学の智識が入ってくるとともに日本を訪れる欧米人も多くなり各種の学問がこれら欧米人によって発展を始めたと同じように基礎がきづかれたことは周知のことである。兵庫即ち神戸も兵庫の港として古く開けたので欧米人の来訪者の多くが兵庫・神戸に立ち寄り、或は滞在して昆虫を採集したりした。その関係で兵庫・神戸に関する昆虫の研究も日本の昆虫の研究とほぼ同じ時代から知られていたことになる。このことは甲虫、コガネムシ類についても同じことがいえるわけである。そうした時代兵庫県下全般の様相はわからないが少なくとも神戸(兵庫-兵庫港)の状況はいわゆる漁港の兵庫港であって一歩人家のある所から出れば田畑でありすぐそばまで山林がせまっており、野獣(当時の記録を見ると猿、鹿は多くいたようである)もいることだしあまり採集にも行けなかったであろうと考えられる。

海岸線は船の接岸する場所以外は砂浜の状況であったことが当時の記録を見るとうかがえる。したがってそのような状況下で採集されたコガネムシ類は現在そのまま生息しつづけているとは考えにくい。

砂地の海岸線は現在では兵庫県の瀬戸内に面した地域で残っているのは極めて僅かである。したがってそのような場所に生息していたものが絶滅したということは考えられることである。食糞コガネムシにしても当時人家のある所から一歩出ると田畑の地であり農耕に牛、馬を使っていたことは当然である。人糞も肥料として使用されていた戦前の神戸市

内で運搬の手段に牛、馬車が往来しており道路は地道で(未舗装)牛、馬糞は道の側方で時には道の真ん中でおめにかかれた。家の近くでも牧場などあったり採集に行つて放し飼ひされている牛に追いかけられたりとにかく色々の糞が身近にいくらでもあった。したがつて摩耶山麓にヤマトエンマコガネ(この項目では学名を一切省略してある)が多くいたりとか砂地にダイコクコガネが多いといった記録が残っている。筆者が採集した頃 1936 年頃は家の近くに牧場がありオオフタホシマグソコガネがいやになる位採れたものであるが今県下でこの種と出会うのはかなりむづかしくなつた。1940 年代は毎年春先に淡路島の岩屋から開鏡観音寺にかけて度々採集に出掛けた。このあたり道端にわりと牛糞が多くセンチコガネとかゴホンダイコクコガネが採集出来県下でもあまり記録の無いセマルオオマグソコガネが採れた。

戦後農耕に牛、馬の使用が無くなり機械化されたことから牛、馬の姿が急速に減少した。牧場なども採算にのらないのか減少の傾向にある。道路は舗装されてしまった。確かに戦前の神戸でさえダイコクコガネは採れたのである。垂水あたり一面田圃、畑で人家はまばらにしか見られなかつた。急速の開発で驚くべき変革が始まつた。多可郡あたりバケツ一杯オオセンチコガネが採れたとゆうような夢のような話しも今では想像もつかない。此処には牧場もありダイコクコガネがわりと採れたがこの牧場も無くなつた。ダイコクコガネを多産した生野の牧場も無くなつてしまった。養父郡氷ノ山山麓大久保の部落のはづれで道端にある牛糞からツノコガネがわんさといふのに出会つた感激は今でも忘れられない。このように食糞性のコガネムシ類はその生息地域が次々と無くなつていふので我々が接することが大変困難になつて来た。全部が全部滅亡したとは思わないがどのように生きていふのか非常に心もとない状況になつており当然滅亡してしまつたものもあるだろうし滅亡に向かつていふことは事実ではないだろうか。神戸市内にいたオオセンチコガネも今では無理だろう(本種は県下でも数少ない糞虫になつてきていふようである)。

ただ犬の糞などにチビコエンマコガネが見られるようになったのはわりと最近のことである。糞虫などの相が変わりつつあるのかもしれない。また野獣の糞なども貴重な食料源であらう。

食糞類とは違つて食葉類と考えられるコガネムシ主科のものも森林が切り倒され道路が出来、住宅が出来てくれば当然棲家を失つて滅亡へと追いかけられることになるであらう。例えば新興住宅街が出来て数年住民からは夏の夜虫が多くやつて来て困るという苦情が役所に寄せられる。それはその住宅街に住んでいふ虫達が追われてのことである数年たてば数が減少するといふことは虫が滅亡したことになるのではないだろうか。高速道路が開通してすぐその途中途中にあるパーキングエリアに夜訪れて見た。今まで光の無い地域に煌煌たるあかりがつくのであるからそれこそ何処も多くの虫達が集まつてくる(珍品、野外で採集出来難い種などが多く来ている)。この現象は年を経て次第にその数が減少してくる。虫達の棲家がなくなつたがゆゑに減少へと追いやられてゆくのであらうと考えられる(光に集まつた虫は其処で死亡してゆく)。

池は埋め立てられる。河川は改修されコンクリート張りの川に変わつてゆく、樹木は切り倒される。闊葉樹林は切り開かれ植林するのは針葉樹ばかりといふ単純林に変えられる。道路が出来るとはゴミ投棄の機会を与えるようなものである。ゴルフ場がいたる所

に建設される。当然芝草好きのコガネムシが発生する。防除に薬品を散布する。地下に浸透して付近の住人に被害を与える。

今迄あった自然も人間の都合でどんどん変えられてゆく。行政は横の連絡は全くない。自然保護とか自然を大切にといってもただ単なる題目だけで何の拘束力も無い。要は問題が起こる所まで進まなければ自覚出来なく(そうなってからでは遅いのであるが)、それと教育に大きな問題がありそうである。狭い日本、天然資源の乏しい日本での自然との調和のとれた生き方をもっと考えなくてはと思われる。

目の前から色々の虫達の姿が見られなくなってゆく反面人間社会との関連ある虫達は増えているのではないだろうか。前にのべたゴルフ場での芝を好む虫達は逆に増加しているように思われる。密入国してくる虫達も結構多くなっている。

コガネムシ相といっても変わりつつあるのではないかと考えられる。かつていたコガネムシが見られなくなった替わりにほとんど見られなかったもの全く新しいものが見られるようになって来たような現象が無くはない。

兵庫県のコガネムシ相も未調査地も多くありまたある程度の組織的な調査でなく好事家の細々とした調査だけではその片鱗しかわからない。そのような状況にあるのが現状であろう。

参 考 文 献

個々の県下産コガネムシに関する文献については拙著文献目録を参考して頂くとして特に文中話題になったものの文献だけを記しておく。また分類関係の文献については多いので一切省略させて頂いた。

1. Balthasar, V., 1955. Eine neue Art und Unterart der Gattung *Gymnopleurus* Illig.(Col.) Mit. munch. ent. Ges. 44/45:393-396.
2. Balthasar, V., 1963. Monographie der Scarabaeidae und Aphodiidae der palaearktischen und orientalischen Region. I. 392pp. (ref. p.217) Tschechosl., Prag.
3. 藤岡昌介, 1990. *Gymnopleurus (Paragymnopleurus) stripes japonicus* Balthasar について〔日本産コガネムシ類に関する考察(2)〕. 甲虫ニュース(92):4.
4. 井上 健, 1972. ミヤマダイコクコガネの巢中よりツヤケシマグソコガネを多数採集. 昆虫と自然 7(2):33.
5. 石田正明・藤岡昌介, 1988. 日本産コガネムシ主科目録(第一版補訂版) LAMELLICORNIA 別冊 2.
6. Heyden, L. 1879. Die coleopterologische Ausbeute des Prof. Dr. Rein in Japan 1874-1875. Deut. Ent. Zeit., XXIII:Heft. II:321-365.
7. 平嶋義宏監修・九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター共同編集, 1989. 日本産昆虫類総目録 I:298-316.
8. 増田 猛・橋本直也, 1941. 一中附近の昆虫. 兵庫県立第一神戸中学校博物学会(孔版・単行本)
9. 三宅義一, 1990. 1種ではなかったオオトラフコガネ. 北九州の昆虫 37(1):27-32,pl.4.

10. 野村 鎮, 1952. 日本及びその近傍のコフキコガネに就いて. 桐朋学報 (2):24-34, Taf. I-III.
11. 大上宇一, 1907. 播磨産甲虫類. 昆虫世界 11(115):110-112.
12. 恩藤芳典・江原昭三, 1974. 氷ノ山等東中国山地国定公園拡大予定地域の動物相—鳥取県内地域の実情—. 東中国山地自然環境調査報告, 兵庫・岡山・鳥取県:141-153.
13. 澤田玄正, 1937. サツマコフキコガネに就いて. 日本の甲虫 1(2):102.
14. 田花雅一・奥田則雄, 1992. マグソクワガタについて. 月刊むし (256):4-10.
15. 高橋壽郎, 1965. 兵庫県のクワガタムシ. 兵庫生物 5:(1):38-46.
16. 高橋壽郎, 1967. 兵庫県のコガネムシ. 兵庫生物 5:(3/4):252-259.
17. 高橋壽郎, 1981. 兵庫県産甲虫類に関する文献目録・改訂版. B5, 45p. 自刊.
18. 高橋壽郎, 1981. 兵庫県産甲虫相資料・91. きべりはむし 9(1):32-34.
19. 高橋壽郎, 1982. 兵庫県のクワガタムシ. てんとうむし (8):141-152.
20. 高橋壽郎, 1983. 神戸産珍奇なコガネムシ数種の記録. きべりはむし 11(1):25-28.
21. 高橋壽郎, 1984. 兵庫県産甲虫類に関する文献目録 追加篇・I. B5, 14p. 自刊.
22. 高橋壽郎, 1987. 兵庫・神戸を原産地とする鋸角類について. SAIKAKU (4):1-8.
23. 高橋壽郎, 1990. キイオオトラフコガネ兵庫県に産す. きべりはむし 18(2):43.
24. 高橋壽郎, 1993. 兵庫県産甲虫類に関する文献目録, 追加篇 II. 自刊.
25. 高橋壽郎, 1994. 淡路島の甲虫相. PARNASSIUS (40):1-6.
26. 田中 稔, 1993. ミツコブエンマコガネ網干に産す. きべりはむし 21(1):26.
27. H. Yawata, 1942. Notes on the Glaphyrinae of Japan with Descriptions of a New Genus and two new species. Trans. Kansai Ent. Soc. 12(1):33-37.

(追記) 脱稿後永幡嘉之氏により養父郡氷ノ山より県下初記録のミヤマオオハナムグリ *Protaetia lugubris* (Herbst, 1789) の記録発表があった (IRATSUME, No.8:56, 1994)

(たかはし としお)

イシガケチョウについて

谷川大海³

イシガケチョウは淡路島ではもはや珍しい蝶ではないが、越冬した個体からの第一化と思われる成虫を採集し、その後この第一化からの卵を得て、飼育し、羽化させることが出来たのでここに報告する。

1994年5月29日正午ごろ、鮎屋ダムから池田へ抜ける山道で、成虫の飛翔を目撃した。筆者がこの蝶の飛ぶところを見るのは初めてであったので感激であった。(実は前日の28日に、妻が諭鶴羽山の中之子橋付近で成虫が止まったところを目撃している。) 簡単に採集することが出来た。新鮮なみであった。羽化して間もない第一化と思われる。この後観察を続けたが、2頭目を見つけることは出来なかった。しかし6月10日になって、

3: 〒656 洲本市大野 1018-2

成虫を採集した近くのイヌビワの葉で6卵を発見した。1mにも満たないイヌビワの、ほころびかけた新葉に、1卵ずつ、6ヶ所に産付されていた。イヌビワは近くにも数本見られたが、これらの葉は成葉であったためか卵は見られなかった。

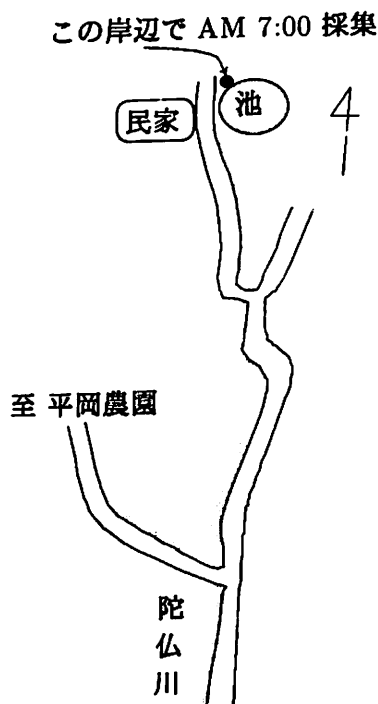
5日後にすべての卵が孵化した。初めは2匹を室内で、4匹は袋がけをせずに、発見した場所で自然状態で観察しようと思っていたが、場所が道沿いのため草刈をされる恐れがでてきた。やむなくすべてを飼育箱に移した。

幼虫期間の平均は12.6日であった。この数字は他の蝶のそれと比べると、かなり短い。どんどんと齢が進んで終齢の5齢を迎えた。2齢直前までは6匹全部健在であったが、羽化まで行けたのは4匹であった。蛹期はそれぞれ6日(♂)、6日(♂)、6日(♂)、7日(♀)であった。

(たにがわ だいかい)

コムラサキを採集 交告尚史⁴

1994年8月17日。洲本市宇山でコムラサキ♂を一頭採集したので報告しておきたい。翅はかなり損傷している。



(こうけつ ひさし)

4: 〒225 横浜市緑区黒須田32-12 あざみ野405

昆虫類の早期発生について

堀田 久⁵

大阪管区气象台によると、猛暑の今年の夏は、昆虫や植物の様子がおかしく、異例の早さで鳴き始めたり、開花しているとのことである。筆者の観察によると、夏に限らず、今年（1994年）の4月以降、多くの昆虫について、例年より発生が早くなっているため、これまでに確認した成虫の初見日や、初鳴日などを報告しておきたい。

なお、この記録は、すべて洲本市安乎町北谷の自宅付近での自宅付近での観察によるものである。

1. ウ斯巴キトンボ *Pantala flavescens*
平年は7月下旬ごろから個体数が多くなり、群飛が見られるようになるが、今年は7月初旬から個体数が多くなり、特に7月下旬から8月上旬にかけては、これまでになかった、おびただしい数の群飛が見られた。
2. アブラゼミ *Graptosaltria nigrofuscata*
通常は、7月10日ごろから鳴き声を聞くが、今年は6月15日に羽化を確認し、6月29日に初鳴きを確認した。
3. ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi*
早くても7月に入ってから現れるが、今年の初鳴日は6月25日であった。
4. ヒグラシ *Tanna japonensis*
通常は、7月に入ってから鳴き声を聞くが、今年は6月25日の明け方、初めて鳴き声を聞いている。
5. ミンミンゼミ *Oncotympana maculaticollis*
通常は、7月20日ごろから鳴き声を聞くが、今年は7月12日に鳴き声を聞いている。
6. ツクツクボウシ *Meimuna opalifera*
通常はお盆の頃から鳴き声を聞くが、今年は8月4日に鳴き声を聞いている。
7. ナガサキアゲハ *Papilio memnon*
通常5月中旬より春型が姿を見せる。これまでの最も早い記録は5月9日であったが、今年は5月1日に確認している。
8. モンキアゲハ *Papilio helenus*
通常5月中旬より春型が現れる。これまでの最も早い記録は5月5日であったが、今年は5月3日に確認している。
9. コミスジ *Neptis sappho*
これまでの最も早い記録は4月24日であったが、今年は4月21日に春型の雄を採集した。
10. アカシジミ *Japonica lutea*
通常は5月下旬から出現するが、今年は5月19日に確認している。
11. ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus*
通常4月中旬から見られるようになる。これまでの最も早い記録は4月6日であったが、今年は4月2日に確認している。
12. ジャノメチヨウ *Minois dryas*

5: 〒656 洲本市安乎北谷 630

通常は7月に入ってから出現する。これまでの最も早い記録は6月24日であったが、今年は6月16日に確認している。

13. サトキマダラヒカゲ *Neope goschkevitschii*
通常は4月中旬より出現する。これまでの最も早い記録は4月9日であったが、今年は4月5日に確認している。
14. チャバネセセリ *Pelopidas mathias*
本種は個体数が少なく、これまでは6月以降に見られたが、今年は5月19日に確認している。
15. タمامシ *Chrysochroa fulgidissima*
通常は7月に入ってから姿を見せるが、今年は5月31日の羽化を確認している。

(ほりた ひさし)

正誤表

PARNASSIUS No.40 「淡路島の甲虫相」

頁	行	誤	正
1	欄外	兵庫県昆虫資料・285	兵庫県甲虫相資料・285
3	23	Troscidae	Throscidae

編集後記

- ▽ ここ数年来の異常気象は、局地的な集中豪雨といい、この夏の日照りといい、異常を超えたものを感じます。ビル・マッキベンの「自然の終焉」が現実のものとなりつつあるようです。淡路島ではこの夏50年来の早魃で、立木や水稻も少なからず枯死しました。堀田氏の報文にもあるように、昆虫の世界にも様々な影響が見られるようです。
- ▽ 次号は明年春に発行を予定しています。原稿をお寄せください。(TB)

PARNASSIUS No.41

1994年10月19日印刷 1994年10月22日発行
編集者 登日邦明 発行所 淡路昆虫研究会
〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235
郵便振替 01170-3-49591

印刷所 れいめい社

〒656 兵庫県洲本市本町5丁目1-24

